



佐賀県におけるカンキツ病害虫防除暦の考え方

佐賀県果樹試験場 **衛 藤 友 紀**

はじめに

佐賀県の果樹は、山間山麓部を中心に広く栽培されており、主な品目はカンキツ類で果樹産出額の約9割を占めている(2020年)。カンキツをはじめとした果樹栽培において、高品質生産を目指すためには病害虫防除は重要であり、防除を行うにあたり病害虫防除暦を参考にすることが多い。本県における果樹の防除暦は佐賀県農林水産部が作成する「施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき」(以下、てびき)内にそれぞれの樹種別に各種病害虫ごとに掲載されている。

掲載内容としては、まず初めに「てびき掲載に係る方針」として、本てびきが薬剤防除に偏ることなく、各種防除技術を駆使した構成であるとした「てびき策定方針」から始まり、掲載している薬剤の掲載にあたっての根拠などが記されている。次に総合的病害虫・雑草管理(IPM)の普及・推進について、農薬の適正使用に関すること、無人ヘリコプターに関すること、およびGAPの導入促進に関することが掲載されている。その後には病害虫別に生活史などの生態、防除適期などの防除のねらいおよび各種防除方法が記されている。また、薬剤抵抗性・耐性菌対策の一環として、問題となっている病害虫を中心にRACコードを付ける等をして、薬剤選択の際の参考としている。

ここでは、本県てびきに掲載している露地温州みかん(以下、みかん)の防除暦の考え方について紹介する。

I てびき・暦の構成

みかんの灰色かび病の頁(図-1)とみかん防除暦(表-1)をそれぞれ示した(令和5年版)。先にも述べたように、各病害虫については生態～防除法を記しており、さらに写真や図等も掲載してわかり易さにも努めている。みかんの病害は11種、害虫は22種について図-1のように個別に説明している。さらに、防除の難易度、経済的

な被害の重要性を考慮し選んだ病害虫を対象として作成した年間の防除暦(防除のガイドライン例)が表-1となる。防除暦は、薬剤の散布時期、対象病害虫、RACコード、薬剤名および備考の順で構成されており、特に備考には防除上の注意点などの重要な情報を記している。

1 対象病害虫

本県のみかんにおける重要病害虫としては、そうか病、黒点病、果実腐敗、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類およびゴマダラカミキリ等が挙げられ、防除適期が限られている、防除期間が長い、薬剤抵抗性で防除が難しい等の何らかの問題点を抱えている。

2 時期ごとの防除の考え方

(1) 発芽期～展葉期

重要病害であるそうか病の重要な防除時期にあたることから基幹防除薬剤であるデランフロアブルを入れている。その一方で、本剤にかぶれる人もいるのでその場合はストロビードライフロアブルを選択するようにしている。後者については、マシン油乳剤を加用する場合、希釈倍数を3,000倍とするようにしている。マシン油乳剤が展着剤の役割を果たして、本剤2,000倍と同等の効果を示すためである。もちろん、マシン油乳剤を加用することで、ミカンハダニにも有効である。このようにして、本県のてびきにはマシン油乳剤がたびたび登場するが、利用にあたっての考え方はおおむね同じである。

備考に記してはいるが、高糖系温州などではかいよう病の被害を受ける場合があるので、臨機防除が必要である。

(2) 満開期～落弁期

満開期は灰色かび病を対象としてフロンスайдSCなどを掲載している。本年のような表年の場合、本病が多発する恐れがあるので、徹底する必要がある。次に落弁期のそうか・黒点・灰色かび病の3病害にナリアWDG、ミカンハダニにマシン油乳剤、カイガラムシ類にモベントフロアブルをそれぞれ充てている。近年、生産現場においてそうか病の発生を認めていない。この一因として、発芽期と落弁期に防除が徹底されているためと考え

The Concept Constructing an Citrus Pest Control Calendar in Saga Prefecture. By Tomoki Eron

(キーワード: 佐賀県, かんきつ, 病害虫, 防除, 防除暦)